

公益財団法人 日本ボールルームダンス連盟

《ジュニア・スクール企画趣意書》

本連盟は、平成4年3月24日に文部科学省認可の団体として発足し、以来、ダンス普及の土台となる指導者の育成と認定試験制度の整備を進めながら、ジュニア・スクールの開校や学校教育へのアプローチ、地域社会への関わり、国内4大会をはじめとする様々なダンス競技会の開催や各種普及イベントを全国で展開してまいりました。

平成24年には、全ての小中学校でダンスの授業が必修となり、ダンスを通じて国際社会で活躍できる人材を育むためにも、さらにその普及に期待が寄せられております。

また、本連盟は平成26年4月に公益財団法人へと移行し、芸術性とスポーツ性を兼ね備えたボールルームダンスのさらなる普及・発展のために、今後も様々な活動を行ってまいります。

その中で発足当初から活動しているのが、全国各地に展開しているジュニア・スクールです。青少年の情操教育の一環として、ジュニア層の育成ならびにボールルームダンスの普及・発展を目的に行っておりますが、現在では、ジュニア・スクールで学んだ生徒が選手として多くの場面で活躍するまでに至っております。

つきましては、今後もダンス文化普及のために、さらに活動を広めていきたいと考えておりますので、以下の趣旨をご理解いただき、ジュニア・スクールの開校にご協力賜りますようお願い申し上げます。

★ボールルームダンスの現状について

1. ボールルームダンスとは

「ボールルーム (ball-room)」とは、「舞踏室」という意味です。

“Ball”は、ラテン語に由来する言葉で「踊る」という意味があり、それが「空間」を表す“room”と結びついて生まれたといわれています。

中世後期のヨーロッパにおいて、貴族や名門といわれる階級の人々が踊った「宮廷舞踏」と呼ばれる特別な舞踏形式がありました。「宮廷舞踏」は鑑賞用の踊りとしてのバレエと、ポピュラー音楽やミュージカル、デキシーランド音楽やジャズといった優れた音楽と一体となり、社交としてのダンス、さらには競技としてのダンスの両面を併せ持つ「ボールルームダンス」として普及・発展を遂げております。

2. ダンス人口はどれくらい

ボールルームダンスは、レジャーの枠を超え、生涯スポーツとして、芸術として確固たる地位を占めるまでに至っております。また、全国各地に数多くのダンス教室や地域クラブ・職場サークルが存在し、年齢・性別に関係なく、多くの方が、踊ることの楽しさや喜びにふれながら、健康のため、充実した人生のため、技術や資質の向上に励んでおり、日本国内のダンス人口は100万人ともいわれています。

3. ダンス競技会の開催

現在、地域の小さな競技会をはじめ、県単位の大会、全国的な大会など、全国各地で毎週のように競技会が開催されており、スポーツの一分野として認知されています。

4. 世界のダンス界の現状

欧米各国では成人のみならず、小学生までが文化としてダンスを楽しんでおり、ノーベル賞授賞式やアメリカ合衆国大統領就任式でダンスを踊るなど、社会的な認知度の高さや競技人口の層の厚さは日本をはるかにしのいでおります。

5. オリンピックをめざして

今、世界のダンス界では、いずれはオリンピックの種目となる「競技ダンス」において、ジュニア育成が急務となることは間違いないのです。

★ジュニア・スクールの開設について

1. 開設の目的

現在、ダンス人口は高齢者層の占める割合が高く、ダンスを全国に普及させるためには、若年層に幅を広げなければなりません。

男女2人が1組となり呼吸を合わせて踊る「ボールルームダンス」を通じて、「エチケット」や「マナー」を学ぶとともに、心の豊かさや道徳的価値観を育むなど、子どもたちの人間形成に寄与したいと考え、ジュニア・スクールを開設いたしました。さらに、海外とも関わりの深いボールルームダンスを通じて、国際的な視野が広がることも期待しています。

また、将来の国体参加やオリンピック参加に備えて、今のうちから若年層の拡大を図ることが必要であり、今後、ジュニア・スクールがより一層、全国的に展開されていくことが期待されています。

2. 内 容

全国の16歳未満の子どもたちを対象にジュニア・スクールを開設し、本連盟指定のカリキュラムを参考に指導を行っていただきます。開設にあたっては、本連盟の規定条件を満たすことが必要となります。また、希望するジュニア・スクールへ、出席カードとシールを配布しています。

3. 期待される成果

ダンスの楽しさを知ってもらうとともに、子どもたちの技術力の向上と健全育成への貢献が期待されます。また、ボールルームダンスが若年層へ浸透することにより、その活性化および拡大にもつながると考えています。